

四 半 期 報 告 書

(第66期第2四半期)

石光商事株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

石光商事株式会社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	19

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年11月12日

【四半期会計期間】 第66期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 石光商事株式会社

【英訳名】 S. I SH I M I T S U & C O . , L T D .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 森 本 茂

【本店の所在の場所】 神戸市灘区岩屋南町4番40号

【電話番号】 078-861-7791(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役執行役員管理部門長 山 根 清 文

【最寄りの連絡場所】 神戸市灘区岩屋南町4番40号

【電話番号】 078-861-7791(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役執行役員管理部門長 山 根 清 文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第65期 第2四半期 連結累計期間	第66期 第2四半期 連結累計期間	第65期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(千円)	17,298,298	19,523,782	35,882,689
経常利益又は経常損失(△)	(千円)	△316,348	149,393	△139,202
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失(△)	(千円)	△211,944	147,093	△151,916
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	△36,857	53,216	△96,357
純資産額	(千円)	7,451,358	7,427,489	7,391,858
総資産額	(千円)	20,224,079	21,561,889	19,889,181
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失金額(△)	(円)	△27.50	19.08	△19.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	36.0	33.6	36.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△747,254	△590,276	△122,718
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△96,230	△126,756	△131,037
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	664,011	976,903	324,422
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,544,837	2,072,119	1,806,283

回次		第65期 第2四半期 連結会計期間	第66期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)	(円)	△7.45	9.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」、また、「四半期(当期)純損失」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失」としております。
4. 第65期第2四半期連結累計期間および第65期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第66期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業所得や雇用環境等は改善しているものの、中国の経済成長率の低下や世界的な景気減速の不安感に伴う株価の下落などにより、不安定な状況となりました。

当社グループの主力マーケットである食品業界は、個人消費が先行きへの不安から力強さを欠き、競争が激化するなか、依然として厳しい経営環境が続きました。

コーヒー業界におきましては、コーヒー生豆相場は期初から緩やかな下降をたどる相場で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは喫緊の課題である「安定して利益を出せる体制の再構築」と成長戦略「GO GO PLAN」達成に向け、事業運営体制の強化として「営業力の強化」「業務効率の向上」「リスク管理の強化と品質管理の充実」、将来を見据えた着実な事業拡大として「新規事業の発掘・新商品の開発」「新規顧客の開拓」「海外事業の拡大」に取り組んでおります。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は19,523百万円（前年同期比12.9%増加）となりました。利益面につきましては、売上高の増加および売上総利益率の改善等により営業利益は31百万円（前年同期は306百万円の営業損失）、また持分法による投資利益の計上等により経常利益は149百万円（前年同期は316百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は147百万円（前年同期は211百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各部門別の状況は次のとおりであります。

① コーヒー・飲料部門

1) コーヒー生豆

コーヒー生豆のニューヨーク市場価格は、期初の1ポンドあたり132.90セントから、緩やかに推移し9月末には121.35セントとなりました。このような状況のなか、プレミアムコーヒーを中心に主要取引先への販売は順調に推移いたしました。

その結果、コーヒー生豆の売上高は前年同期比27.8%増加いたしました。

2) コーヒー加工品

レギュラーコーヒーは、コーヒーバッグが順調に拡大し、またインスタントコーヒーは、原料用バルクおよび家庭用商品が順調に推移いたしました。

その結果、コーヒー加工品の売上高は前年同期比19.3%増加いたしました。

3) 飲料事業

飲料原料は、ゆず果汁およびナタデココの厳しい販売競争の影響により、売上高は前年同期比16.5%減少いたしました。

茶類は、飲料メーカー向け紅茶バルクが順調に推移し、売上高は前年同期比40.6%増加いたしました。

その結果、飲料事業の売上高は前年同期比19.1%増加いたしました。

これらの理由によりコーヒー・飲料部門の売上高は6,849百万円（前年同期比23.2%増加）となりました。

② 食品部門

1) 加工食品

フルーツや野菜の加工食品は、ミカン缶詰等が順調に推移し、売上高は前年同期比25.4%増加いたしました。

イタリアン関連は、子会社が経営するレストランの店舗改装の影響や輸入食品であるブラッドオレンジジュースの激しい販売競争の影響等もあり、売上高は前年同期比6.3%減少いたしました。

国内メーカー商品のうち常温食品の売上高は前年同期比4.4%増加、冷凍食品の売上高は前年同期比3.5%増加いたしました。

その結果、加工食品の売上高は前年同期比6.1%増加いたしました。

2) 水産および調理冷蔵

水産は、主力商品であるエビ・イカ加工品の販売が増加したことにより、売上高は前年同期比2.1%増加いたしました。

調理冷蔵は、大手得意先と鶏加工品の新規取引を開始したことにより、売上高は前年同期比15.5%増加いたしました。

その結果、水産および調理冷蔵の売上高は前年同期比6.7%増加いたしました。

3) 農産

生鮮野菜は、梅が円安によるコストアップの影響で大手得意先からの受注が減少いたしました。また、引き続き国産玉葱の豊作による輸入品の減少等により、売上高は前年同期比6.3%減少いたしました。

加工品は、蓮根が順調に推移したことにより、売上高は前年同期比24.8%増加いたしました。

その結果、農産の売上高は前年同期比9.6%増加いたしました。

これらの理由により食品部門の売上高は10,905百万円（前年同期比7.2%増加）となりました。

③ 海外事業部門

アジア向けの輸出が引き続き好調に推移したことにより、海外事業部門の売上高は1,769百万円（前年同期比13.1%増加）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、資産合計は21,561百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,672百万円の増加となりました。これは主に現預金および売上債権の増加によるものであります。

負債合計は14,134百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,637百万円の増加となりました。これは主に仕入債務および借入金の増加によるものであります。

純資産合計は7,427百万円となり、前連結会計年度末に比べ35百万円の増加となりました。これは主に繰延ヘッジ損益の減少120百万円および配当金の支払い15百万円に対し、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益147百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ265百万円増加し、2,072百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は590百万円（前年同期に比べ使用した資金は156百万円減少）となりました。これは、売上債権の増加額1,081百万円に対し、仕入債務の増加額281百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は126百万円（前年同期に比べ使用した資金は30百万円増加）となりました。これは、有形固定資産取得による支出49百万円および投資有価証券の取得による支出48百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は976百万円（前年同期に比べ得られた資金は312百万円増加）となりました。これは、借入金の収支による収入1,101百万円に対し、社債の償還による支出70百万円等によるものであります。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた問題はありませぬ。

(5) 研究開発活動

特記すべき研究開発活動はありませぬ。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,400,000
計	22,400,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,000,000	8,000,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	8,000,000	8,000,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	—	8,000	—	623,200	—	357,000

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
石光商事従業員持株会	神戸市灘区岩屋南町4-40	332	4.15
㈱三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	252	3.16
石光 輝男	神戸市灘区	238	2.98
駒澤 孝江	神戸市北区	216	2.71
日米珈琲㈱	神戸市灘区灘南通6-2-20	204	2.55
㈱トーホー	神戸市東灘区向洋町西5-9	200	2.50
㈱みなと銀行	神戸市中央区三宮町2-1-1	194	2.43
丸紅㈱	東京都千代田区大手町1-4-2	192	2.40
石光 輝信	横浜市磯子区	179	2.24
石光 義幸	東京都八王子市	178	2.24
計	—	2,188	27.36

(注) 上記のほか、自己株式が291千株（所有株式割合3.65%）あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 291,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,705,300	77,053	—
単元未満株式	普通株式 3,000	—	—
発行済株式総数	8,000,000	—	—
総株主の議決権	—	77,053	—

② 【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 石光商事(株)	神戸市灘区岩屋南町4-40	291,700	—	291,700	3.65
計	—	291,700	—	291,700	3.65

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,914,493	2,180,739
受取手形及び売掛金	※1 6,281,548	※1 7,363,177
商品及び製品	3,795,819	4,341,157
未着商品	1,373,282	1,015,329
仕掛品	11,674	12,175
原材料及び貯蔵品	91,711	83,339
その他	555,556	464,956
貸倒引当金	△8,799	△13,175
流動資産合計	14,015,286	15,447,701
固定資産		
有形固定資産	2,638,492	2,632,926
無形固定資産	83,870	109,772
投資その他の資産		
投資有価証券	2,659,852	2,892,799
その他	570,936	535,421
貸倒引当金	△80,528	△57,365
投資その他の資産合計	3,150,261	3,370,854
固定資産合計	5,872,624	6,113,554
繰延資産	1,270	634
資産合計	19,889,181	21,561,889

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,353,645	3,634,841
短期借入金	2,245,600	2,628,000
1年内償還予定の社債	150,000	115,000
1年内返済予定の長期借入金	1,429,456	1,537,856
未払法人税等	17,593	28,861
賞与引当金	71,075	138,212
その他	1,272,035	1,520,060
流動負債合計	8,539,406	9,602,831
固定負債		
社債	80,000	45,000
長期借入金	3,151,644	3,762,416
退職給付に係る負債	108,561	112,454
その他	617,711	611,698
固定負債合計	3,957,916	4,531,569
負債合計	12,497,322	14,134,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	623,200	623,200
資本剰余金	357,000	357,000
利益剰余金	6,173,591	6,305,268
自己株式	△107,415	△107,434
株主資本合計	7,046,375	7,178,033
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	84,038	109,182
繰延ヘッジ損益	43,046	△77,062
為替換算調整勘定	37,727	44,109
その他の包括利益累計額合計	164,812	76,229
非支配株主持分	180,670	173,225
純資産合計	7,391,858	7,427,489
負債純資産合計	19,889,181	21,561,889

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	17,298,298	19,523,782
売上原価	15,620,994	17,416,755
売上総利益	1,677,304	2,107,026
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	△2,676	7,636
報酬及び給料手当	518,631	491,828
賞与引当金繰入額	88,639	116,499
その他	1,378,815	1,459,141
販売費及び一般管理費合計	1,983,410	2,075,106
営業利益又は営業損失(△)	△306,106	31,920
営業外収益		
受取利息	2,237	2,082
受取配当金	1,977	2,040
持分法による投資利益	8,510	140,344
受取賃貸料	9,900	9,900
その他	28,853	20,363
営業外収益合計	51,478	174,731
営業外費用		
支払利息	49,831	47,520
その他	11,889	9,737
営業外費用合計	61,721	57,258
経常利益又は経常損失(△)	△316,348	149,393
特別利益		
投資有価証券売却益	16	—
特別利益合計	16	—
特別損失		
固定資産除却損	3,439	457
貸倒引当金繰入額	150	—
特別損失合計	3,589	457
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△319,921	148,935
法人税、住民税及び事業税	7,680	21,869
法人税等調整額	△111,217	△14,732
法人税等合計	△103,537	7,136
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△216,383	141,799
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,438	△5,294
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△211,944	147,093

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△216,383	141,799
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,629	14,739
繰延ヘッジ損益	179,836	△120,108
為替換算調整勘定	△7,021	6,381
持分法適用会社に対する持分相当額	3,080	10,403
その他の包括利益合計	179,525	△88,582
四半期包括利益	△36,857	53,216
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△32,419	58,510
非支配株主に係る四半期包括利益	△4,438	△5,294

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△319,921	148,935
減価償却費	105,484	104,165
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△6,726	△18,786
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,285	67,136
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	10,852	3,893
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△29,795	5,936
受取利息及び受取配当金	△4,214	△4,123
支払利息	49,831	47,520
為替差損益(△は益)	△32	31
持分法による投資損益(△は益)	△8,510	△140,344
固定資産除却損	3,439	457
投資有価証券売却損益(△は益)	△16	—
売上債権の増減額(△は増加)	△491,341	△1,081,629
たな卸資産の増減額(△は増加)	△161,595	△179,515
仕入債務の増減額(△は減少)	151,117	281,196
その他の資産の増減額(△は増加)	△58,559	124,659
その他の負債の増減額(△は減少)	96,418	90,176
その他	△23,430	△9,064
小計	△684,716	△559,353
利息及び配当金の受取額	4,636	5,270
利息の支払額	△53,902	△51,273
法人税等の支払額	△18,173	△14,673
法人税等の還付額	4,902	29,753
営業活動によるキャッシュ・フロー	△747,254	△590,276
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△57,280	△49,052
無形固定資産の取得による支出	△7,625	△2,952
投資有価証券の取得による支出	△1,095	△48,370
投資有価証券の売却による収入	141	—
関係会社株式の取得による支出	△1,000	—
貸付けによる支出	△32,087	△30,005
貸付金の回収による収入	1,387	4,253
その他の支出	△5,053	△4,600
その他の収入	6,383	3,971
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96,230	△126,756

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,053,000	1,170,000
短期借入金の返済による支出	△756,000	△787,600
長期借入れによる収入	1,400,000	1,500,000
長期借入金の返済による支出	△845,300	△780,828
社債の償還による支出	△70,000	△70,000
自己株式の取得による支出	—	△18
配当金の支払額	△77,609	△15,532
非支配株主への配当金の支払額	△2,604	△2,150
リース債務の返済による支出	△37,474	△36,966
財務活動によるキャッシュ・フロー	664,011	976,903
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6,963	5,965
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△186,437	265,835
現金及び現金同等物の期首残高	1,731,274	1,806,283
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,544,837	※1 2,072,119

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更い
たしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定
による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方
法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更
を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、
四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会
社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載
し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売
却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方
法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点
から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はあります。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 手形割引高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
受取手形割引高	420,746千円	—
輸出手形割引高	23,106千円	38,504千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金	1,653,047千円	2,180,739千円
預入期間が3か月を超える 定期預金及び担保提供預金	△108,210千円	△108,620千円
現金及び現金同等物	1,544,837千円	2,072,119千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月23日 取締役会	普通株式	77,082	10.00	平成26年3月31日	平成26年6月13日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月22日 取締役会	普通株式	15,416	2.00	平成27年3月31日	平成27年6月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

当社グループは、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日）

当社グループは、食品関連事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)	△27円50銭	19円08銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△211,944	147,093
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	△211,944	147,093
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,708	7,708

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月9日

石光商事株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田朝喜 ㊞指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢倉幸裕 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石光商事株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石光商事株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年11月12日

【会社名】 石光商事株式会社

【英訳名】 S. I SHIMITSU & CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 森本 茂

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 神戸市灘区岩屋南町4番40号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員 森本茂は、当社の第66期 第2四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。